

地域学校協働研修会

令和8年7月8日（水）郡山合同庁舎 大会議室A 参加者55名

講義・演習 技が決まれば気分は爽快 楽しいけん玉教室

講師：公益社団法人日本けん玉協会常務理事・協会認定1級指導員

吉村 弘幸（よしむら ひろゆき）氏

講師の吉村氏からは、最初にけん玉は誰でも気軽に組み組める遊びであり、子どもと楽しく関わるための手段の1つであることの説明を受けました。けん玉協会の会長さんを含め、協会の方々の御協力を得ながら、参加者はけん玉に夢中になっていました。もっと基礎から学びたい、集中力がついて良い運動になるなど、たくさんの気づきの声があがりました。



<参加者からの声>

- ・自分も何か得意なものがあると学童でも良い関係が築けると思った。機会があれば子どもたちと指導を受けたい。
- ・子どもたちに落ち着きや集中力が養われると思う。
- ・子どもたちの身近にあるけん玉が、実は奥が深くコミュニケーションの1つになっている事が分かり有意義な時間だった。
- ・けん玉教室はとても楽しく、軽い脚の運動にもなり、できたときの喜びがあつてあつという間に時間が過ぎた。
- ・吉村さんの教え方、話し方がとても上手で、ちょっとしたアドバイスで上達し、けん玉が好きになった。

講話「子どものよさを育む関わり方

～ペアレント・トレーニングの視点を支援に活かす」

講師：福島県立医科大学看護学部

小児・精神看護学部門講師

佐藤 利憲（さとう よしのり）氏

それぞれの個性をもった子どもたちがよりよく成長できる手法として、ペアレント・トレーニングについて学びました。講師の佐藤氏からは、ペアレント・トレーニングで一番大切なことは、常に子どもの「よい行動」に着目し、認め、子どもの気持ちの中に、「うれしい」「楽しい」といったプラスの変化が生じるような、ほめ方をする。また「よい行動に注目する」「無視しない、放置しない」「ほめる」これらはシンプルでありながら、現場で実践するには意識と工夫が大切であるという話をいただきました。昨年度に引き続き今年度も佐藤氏に講話をお願いしましたが、今回も参加者に大変好評で、何度か繰り返しお聞きしながらペアレント・トレーニングの効果を学び続けていきたいという要望がとても多かったです。



<参加者からの声>

- ・褒める、待つ、難しいとは思いますが、習慣化できるよう計画的にやりたいと思う。
- ・適応行動に対して褒めていくことがとても参考になった。危険行動や制止しなくてはならない子どもの行動が多く、他の子どもに危害が加わらないよう制止することに目がいき、負の連鎖を循環していたと思う。良い行動をしている子どもを褒めていくよう試みていこうと思う。
- ・佐藤先生の講義は何度もお聞きしているが、毎回とても参考になる。職場には年配のスタッフもあり、今回の内容を少しでも浸透できるよう働きかけていきたいと思う。
- ・私は集中力が切れて落ち着きがない子一人にかかりきりになってしまったが、もっと適切な対応があったのだろうと反省する。子どもたちとの関わり方を考える機会になった。
- ・子どもの対応の仕方では褒めるということがあり、子どもに対して注目する、肯定する、相手をする、関心をもつということを理解し、子どもと向き合っていきたい。
- ・毎年同じ講師の方で良いと思う。
- ・増やしたい行動を褒める、減らしたい行動は待つ、常に念頭に置いて生活していきたい。

